

第22回 アジア・太平洋賞

アジア・太平洋地域の政治・経済・文化などに関する優れた本を著した研究者、実践者に贈る「第22回アジア・太平洋賞」は選考の結果、大賞1点、特別賞2点が決まった。

今年には日韓併合100年の年だったが、大賞は朝鮮半島で15世紀に人為的に作り出されたハングルが現代言語学から見て非常に優れたものであることを日本人の研究者が詳細な実証研究の末に明らかにした『ハングルの誕生 昔から文字を創る』に決定。また、特別賞の『薄儀の忠臣・工藤忠』と『中国共産党「天皇工作」秘録』は広い意味で日中関係を題材としており、現在の両国間の摩擦をより広い視野で見直すためにも読むべき本といえる。

3冊は昨年7月から今年6月までの1年間に出版された102点の応募作品から選ばれた。

表彰式は15日午後5時から東京都千代田区一ツ橋のパレスサイドビル9階レストラン「アラスカ」で行われる。

大賞 記念の盾と賞金200万円
副賞ANA国際線航空券（エコノミー、本人限り）

『ハングルの誕生 昔から文字を創る』
（平凡社新書）

野間秀樹氏 前東京外国語大学大学院教授

特別賞 記念の盾と賞金各30万円

『薄儀の忠臣・工藤忠 忘れられた日本人の満洲国』
（朝日新聞出版）

山田勝芳氏 東北大学名誉教授

『中国共産党「天皇工作」秘録』(文春新書)

城山英白氏 時事通信社記者

選考委員(敬称略)

栗山 尚一 アジア調査会会長（元駐米大使）
→選考委員長

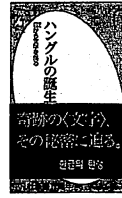
藤辺 利夫 拓殖大学学長
田中 明彦 東京大学教授
松本 健一 評論家・作家・慶応大学教授
岸井 成啓 毎日新聞社主筆

主催 毎日新聞社、(社)アジア調査会
後援 外務省、文部科学省、経済産業省
協賛 Jパワー(電源開発)、日本生命、三菱商事
協力 ANA
助成 (社)東京倶楽部

大賞『ハングルの誕生 音から文字を創る』

野間秀樹氏 平凡社新書

東アジアにおける興味深い言語史



「ハングルの誕生」の著者野間秀樹氏。この本は、ハングルの誕生から、その発展までを、最新の言語学に基づいて詳しく解説している。著者は、ハングルの誕生が、東アジアの言語史において、非常に興味深い出来事であることを指摘している。

「ハングルの誕生」は、東アジアの言語史の中で、最も興味深い出来事の一つである。著者は、ハングルの誕生が、東アジアの言語史において、非常に興味深い出来事であることを指摘している。

韓国語・朝鮮語を語ったことのある人なら、ハングルがいかにか精巧かつ体系的にできたと感服することは、知っていてもいいかも知れない。野間氏は、ハングルの誕生が、東アジアの言語史の中で、最も興味深い出来事であることを指摘している。

「ハングルの誕生」は、東アジアの言語史の中で、最も興味深い出来事の一つである。著者は、ハングルの誕生が、東アジアの言語史において、非常に興味深い出来事であることを指摘している。

「ハングルの誕生」は、東アジアの言語史の中で、最も興味深い出来事の一つである。著者は、ハングルの誕生が、東アジアの言語史において、非常に興味深い出来事であることを指摘している。

世宗は△正音▽革命派の領袖 野間氏



第22回「アジア・太平洋賞」の大賞を受賞した野間秀樹氏。後ろは朝鮮王朝建国をたたえる叙事歌「龍飛御天歌」(1447年)

「ハングルの誕生」の著者野間秀樹氏。この本は、ハングルの誕生から、その発展までを、最新の言語学に基づいて詳しく解説している。著者は、ハングルの誕生が、東アジアの言語史において、非常に興味深い出来事であることを指摘している。

韓国語・朝鮮語を語ったことのある人なら、ハングルがいかにか精巧かつ体系的にできたと感服することは、知っていてもいいかも知れない。野間氏は、ハングルの誕生が、東アジアの言語史の中で、最も興味深い出来事であることを指摘している。

「ハングルの誕生」は、東アジアの言語史の中で、最も興味深い出来事の一つである。著者は、ハングルの誕生が、東アジアの言語史において、非常に興味深い出来事であることを指摘している。

「ハングルの誕生」は、東アジアの言語史の中で、最も興味深い出来事の一つである。著者は、ハングルの誕生が、東アジアの言語史において、非常に興味深い出来事であることを指摘している。